

23年度にメディカルコース

中高一貫 松本秀峰 人間性の基盤も育成

中高一貫校の松本秀峰中等教育学校（松本市、小宮山淳学園長・校長）は、課外活動で実施している「医学進学プロジェクト」を発展させ、選択授業として「メディカルコース」を2023年度に設置する。医学部へ進学する生徒を増やしていくほか、医師に求められる人間性の基盤を育成していく。（広瀬正浩）

クトで実施していた、地域医療をテーマとした特別講義を継続。信大病院や県立こども病院の医師、同校卒業の医学生を招いて、県内医療の現況や中学、高校時代の勉強方法などについても聴く機会を

設ける。このほか、個人研究のなぜ医師を目指すのかを問う「医学研究会」も引き続き行っていく予定だ。

小宮山校長は同コース開設に向け「医学部へ進学する生徒が増え、地域医療の充実に役立てればいい」と話し「人の痛みの分かる医者となるよう、人間性の基盤構築に力を入れていく」と抱負を述べた。

同校では、県内の医療機関や地域包括医療において医師不足の現状を鑑みて、進路指導部長の塩畑泰一教頭は以前から同コースの設置を検討していた。現在4階建ての新校舎を建設中で、特別教室や最先端の理科実験室などこれまで以上の学習環境が22年度春に整備

されるほか、高等学校新教育課程が22年度から実施されることに伴い、メディカルコースの開設を決めた。同コースは、後期課程の5年（高2）・6年次（高3）の選択授業。医系小論文などの入試対策に向けた講座を設置する。また、これまで医学部進学プロジェクト